

会 議 議 事 録

1 会議名	令和元年度第2回長岡市地方創生推進会議
2 開催日時	令和2年2月26日(水) 午後2時から午後3時15分
3 開催場所	アオーレ長岡4階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)(敬称略)</p> <p>長岡市長 磯田 達伸 長岡商工会議所 会頭 丸山 智 長岡地域商工会連合 会長 稲田 育彦 長岡技術科学大学 副学長 中出 文平 長岡崇徳大学 学長 森 啓 長岡造形大学 副理事長 河村 正美 大光銀行 地域産業支援部 副部長 柏櫓 学 第四銀行 執行役員 長岡営業部長 堀 岳彦 長岡信用金庫 営業推進部長 鈴木 和明 新潟縣信用組合 長岡支店 支店長 吉田 祐吉 日本政策金融公庫 長岡支店 総括課長 石田 雄一郎 北越銀行 ソリューション営業部 主任調査役 間野 雅之 連合新潟中越地域協議会 議長 矢島 良彦 新潟日報社 長岡支社長 八木 浩幸</p> <p>(事務局)</p> <p>長岡市 地方創生推進部長 渡邊 則道 政策企画課 課長 大矢 芳彦 政策企画課 主査 渡邊 美和子</p>
5 欠席者名	<p>長岡公共職業安定所 長岡工業高等専門学校 長岡大学 商工組合中央金庫</p>
6 議事	<p>(1) 第2期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略/人口ビジョン～長岡リジュベネーション(長岡若返り戦略)～(案) (資料1)について</p>

	(2) パブリックコメント実施結果の概要(資料2)について
7 報告	なし
8 審議結果の概要	・ 議事(1)、(2)について、事務局から概要を説明し、意見交換が行われた。
9 審議の内容	
事務局・地方創生 推進部長	<p>本日はお忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、令和元年度第2回長岡市地方創生推進会議を開催いたします</p> <p>本日の会議は公開となっております。報道機関による取材が入ることをご承知ください。本日の出席者につきましては、お手元の名簿に代えさせていただきます。</p> <p>それでは、開会に当たり、磯田市長からごあいさつを申し上げます。</p>
磯田市長	<p>お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。日ごろから長岡市の政策にご協力賜りまして、本当にありがとうございます。皆さまのご協力によりまして、第2期の長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案をまとめることができました。重ねて感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>人口の将来展望が、国が2060年に1億人程度という長期展望を変更してございませんので、長岡市の人口の推計も、全体としては人口減少に歯止めがかかっていないものの、若干の改善傾向があることを踏まえまして、2040年に23万5,000人程度を確保したいという内容となっております。</p> <p>また、長岡版イノベーションの視点を入れながら、総合戦略全体を見直して、人口減少の歯止めを着実にやっていきたいという内容となっております。本日は皆さまからのご意見、ご提言を賜りますように、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>私からは以上であります。</p>
事務局・地方創生 推進部長	<p>それでは、議事に移らせていただきます。</p> <p>議長は磯田市長が務めます。よろしくお願いいたします。</p>
磯田市長	<p>それでは、議事に移らせていただきます。</p> <p>第2期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略/人口ビジョン～長岡リジュベネーション(長岡若返り戦略)～(案)につきまして、事務局よりご説明を申し上げます。</p>

事務局・政策企画課長	(事務局から資料について説明)
磯田市長	質問等ございましたら、お願いします。
	(質問なし)
委員	<p>それでは、皆様からご意見を承りたいと思います。座席表の順に、感想でも何でも結構でございますので、お願いいたします。</p> <p>資料説明で出生率の話も一部ありましたが、本当に重要なのが出生率です。子供が産まれないと他の議論をしたって意味がないので、これをどうするかが一番問題です。今すぐに子供を増やしても、社会に出て働くまで約25年かかるので、それまでの間に総合戦略が絵に描いた餅になってしまう可能性があるのではないかと思います。肝心な出生率をどういうふうにするか、そこに集中して議論しなきゃいけない。産まれるだろうから、この施策をやるというのではダメ。まずは、出生率を上げなかったら、ほかの取組も意味がないと思います。</p>
委員	<p>今、長岡地域に12の商工会があり、相談を受けますが、どの地域も人口減が課題です。商工会では人口減が、そのまま会員数の減少につながるため、非常に苦慮しているというのが現状です。県の財政も厳しいもので、補助金が減額されている中で、これから商工会全てが残っていけるかどうかというところも現実としてございます。12のうち2つが、会員数が100人以下となっています。県も100人以下の商工会は補助金を出さないという方向で進めているため、彼らをどのように支えていくかということで、検討を始めております。私は栃尾ですが、栃尾でもやはり人が減っている実感はあり、果たして人口推計の数値に収まるのだろうかという不安も持っております。結果的には人口推計の数値よりも下回るといったような状況にならないことを願っています。</p>
委員	<p>大学の立場というよりも、現在、長岡市の都市計画マスタープランを今年度と来年度、策定の支援をさせていただいている立場から感想を申し上げたいと思います。特に戦略の4で、今、AI、IoT等の取組</p>

委員	<p>を中心市街地の空き地、空き家等の既存ストックを活用して行っていいんじゃないかという動きがあります。これは都市計画の立場というよりは、住宅や産業施策と絡めての話ですが、その辺りも踏まえると、ここに書いてあることよりも、もう少し、取組を強調して言えるのではないのでしょうか。</p> <p>それから、戦略5のインターチェンジ利用台数について、もうすぐ大積のスマートインターチェンジができる予定です。あそこができると、北陸からそこで降りて、ニュータウンを通過して、そのまま栃尾方向へ行く広域の観光ルートができます。また、フェニックス大橋を渡ったりする観光ルートもできるので、基本施策の5-1に書いてあることは将来性があるのではないかと思います。ただし、全体として人口が減っており、車の台数が減ると流動性も減るので、このような施策を一生懸命行って、今よりも少しでも利用台数を増やしていくというところではないかなと思いました。</p> <p>一点要望があります。自然増減といった時に、自然増につながる子供のことは多く書かれてありますが、死亡者のことについては29ページに徐々に増えていっていることが書いてあるのみです。2015年現在、最も年齢別人口の多い65から69歳の団塊の世代の層が亡くなり始めると、急激に死亡者数が増えることが想定される。その頃、自然増減は確実に大幅な自然減になると思うので、それをカバーできる形で社会増を見込んでいるということも、もう試算されていると思うので、できれば、人口推計の後ろのページにそれもちょうんと載せておいたほうがいいのではないかなと思いました。</p> <p>全体によく考えられていて、特に教育のところはまさにこのとおりで、記載の通りにしていただければ、何の非もございません。100%賛同でございます。</p> <p>一点、お伺いしたい点として、若者を増やしたいということで、これはどこの市町村でも同じ意見だと思いますが、実際に小さいお子さんを育てている若いお父さん、お母さん、もしくはこれから結婚しようとするような、18～19から大学生の辺りの年齢の方の意見がどれだけ反映されているのかと。若者向けの取組には、ここにいらっしゃる高齢の方の意見を反映させてもあまり意味がないので、やはり若者の意見をストレートに反映させるということが一番大事なことなのかなというふうに考えてございます。</p> <p>そういった意味で、私も若い時を振り返ってみますと、やはり遊び</p>
----	--

委員	<p>やデートで行きたい場所が近くにないと、まちの魅力というのはないかなと。そういう場所をつくる、もしくは固定的な場所がなければ、イベントなりの促進もしくは支援するような試みもいいのかと思います。</p> <p>最後ですが、しばしば、市の広報関係で、「新しい米百俵」という言葉を聞く機会がございます。私は「米百俵」に新しいはないと思っております。「米百俵」はひたすら教育をするということと認識しています。そういうことで、私見ではございますけれども、米百俵そのものを訴えていくということが一番大切なことかと。これだけの精神を持った市町村は全国には長岡だけだと確信してございますので、堂々と新しいではなく、米百俵そのものを訴えていくことで若者にも受け入れられるのではないかと。そう確信してございます。</p> <p>本学は長岡市が設置をしておりますので、この取り組みには全力で取り組む立場にあります。特に戦略1の若者定着が一番、関わってくると思います。</p> <p>数値目標の中に、「長岡に住みたい、住み続けられる」指標として、市内4大学・1高専・15専門学校卒業者の市内就職率を伸ばします、との記載があります。もちろんこのとおりなのだと思いますが、若者にとって魅力的な椅子、つまり就職先を増やしていくことが大事なのではないかと思います。特に本学は8割近くが県外出身者のため、できるだけ長岡に定着する人間を増やしていくことが大事です。一方で、Uターン、Iターンで長岡に戻ってきたい、あるいは新しく長岡に来たいという人たちもいるわけで、彼らにとって、座りたくなるような魅力的な椅子を増やすための施策というのが若者定着の大事な鍵になるのではないのかと思っております。</p> <p>他には、よそから長岡へ来て、長岡の地で学んだり、研究したりする中で、いろいろな経験をするわけですが、その時にまちの人や長岡にある企業との関係で心を動かされるような経験をどれだけできるかということが重要です。今の若い人たちは、意外とこのような経験を喜んだり、価値観として大事にしたりする傾向もありますので、そういった経験がどれだけできるか。あるいは、周りがそういう経験をつくっていけるかが重要です。それは大学だけではなくて、まちや産業界全体の中で、取り組んでもらうことが必要なのではないかと思っております。</p> <p>また、我々大人がこうあってほしいという、いわゆる大人やまちに</p>
----	--

	<p>とって都合のいい環境づくりが、必ずしも若者の求めるものと合っていない部分があるのだろうというふうに思います。やはり、その立場に立って考えることで、我々が当然だろうと思うことも見つめ直す必要があるのだと思います。そういう意味でいうと、よくアンケートを行います。アンケートで出てくる答えは、設問をつくった時点で、ある程度想定されたものであってそれ以上の答えは出てこないのだと思います。私も経験上、じかに学生の話を知ると、自分で気付かないことや新たな発見が出てくるようなことがあります。もちろん、じかに聞くのでは人数も限られますが、それでも、できるだけ意見を聞く機会を持つことが大事なのではないかと思います。</p> <p>各機関が単独でできることというのは限られていると思いますので、どう連携していくかというのが一番大事かなと思っています。これは5年間の計画ですので、だらだらと続けるのではなく、PDCAを回して、チェックしながら、修正するべきところは修正を加えて、実践をしていかなければならないと思っています。そういう面で、金融機関として関わる部分は多くあると思うので、皆さんと協力しながら、やっていければいいなと思います。</p> <p>私は地域産業支援部という部署で、法人や事業者のお手伝いをしておりますが、ここ最近、人材不足に悩みを多く抱えている方が多いなと感じています。対策としては、中長期的に見れば、出生率の上昇などであると思いますし、短期目線では魅力ある長岡市を作り、若い人が転入してくる環境をつくっていければいいと思っています。</p> <p>また、外国人材の活用についても進めていければ、地域企業の活性化、ひいては地域の活性化にもつながるのではないかと考えております。</p>
委員	<p>総合戦略について、各戦略で KPI の設定をしているので、PDCA を比較的容易に回して、進捗の確認しやすいものになっていると感じました。KPI を設定することで、陥ってしまうことではあるんですが、この KPI の目標を到達したいがために本末転倒になってしまうような施策が、民間企業などではしばしば行われるので、そこは本質を見失わないように進めていくことが重要なのだと思います。</p> <p>例えば、教育であれば、長岡に残ってくれる学生をつくるというのが本分ではなくて、全国や世界で通用する人材を育成するのがまず本義であると思います。その学生の中から、この長岡に愛着を持ってく</p>

委員	<p>れる人を増やすというのが目標になるわけで、ただ長岡に残ってくれる学生を育てるのではないと思います。教育の現場でこの役割を担う人たちがその本質を見失わないようにしなきゃいけないと思います。</p> <p>また、これは令和6年までという長期の計画になるので、その間、大きく環境が変わる時には柔軟に KPI の見直しや施策の変更ができる体制にしておくことが必要だと思います。</p> <p>例えば、今回の新型コロナウイルス対応の中で注目されているところで、テレワーク等を含めた在宅勤務がこれから働き方の中で存在感を増す可能性が高まっていると思います。このケースでは、「働く」という概念が変わる中で、その変化がきっちりと戦略に織り込まれていく必要があります。テレワークであれば、例えば施策は、子育てしやすい職場環境の整備ということが挙げられます。先ほど、長岡に魅力的な椅子、つまり働く場を増やしていくという話がありましたが、この椅子は長岡に別になくてもいいわけです。長岡に居ながら海外や東京の企業に勤めてテレワークや在宅勤務というのもできる時代です。こういった変化に合わせた見直しを、織り込んでいけるようにすればよいと思います。特に長岡は、デザインや IT に優れた人材を輩出する環境にあるので、テレワーク等との親和性は高いと思います。</p> <p>私どもは、本店は長岡にあり、長岡市とは一心同体とっております。幹事会のところから携わらせていただいて、この素案に盛り込まれた内容は、素晴らしいものだと思います。私は金融機関ですので、この中で関わるところも多々ありますが、一番は起業・創業関係の部分だと思います。起業した件数の KPI 目標で、令和6年度41件というふうに定められておりますので、起業・創業される方については私どもも全面的にバックアップしていきたいと思います。</p> <p>また、若者の定着というところがございますけれども、今の若者たちは私達とは、考えが異なります。入庫する新人を見てみても、やはりそう感じます。今の若者たちは自分の理念、理想について、満足感を感じることや褒められることで喜びを感じる場合が多く、昔のように上から指図をしても動かないという側面があります。</p> <p>長岡市は全体的に人手不足と言われていますが、製造業も技術力を持っておりますし、優れた大学、専門学校も多くございます。長岡全体で一丸となって、総合戦略の中で掲げる理念に向かって、進んでいきたいと思います。</p>
----	--

委員	<p>他の金融機関からもコメントがありましたが、今回の総合戦略では数値目標が設定されたということで、我々もこの目標に向かって一緒に取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>総合戦略の30ページに合計特殊出生率が長岡市は新潟県、全国を上回る1.47人という記載があります。これについて私は、戦略2の中に、その要因があると考えています。戦略2の数値目標の中で、満足度というのが現状でも約78.5%と80%近くあります。5年後の目標では85%となっていますが、子育て支援の部分におきまして、現状でもかなり高い評価になっている部分が全国を上回る出生率に表れているのではないかと考えています。</p> <p>また、長岡版の総合戦略で他市町村とここが一番違うや、ここが特徴だ、というところはあるのでしょうか。</p>
磯田市長	<p>そちらについては、後程ご説明します。</p>
委員	<p>承知しました。我々は金融機関でございますので、戦略4に関わる形で、起業や創業というところで協力をさせていただきたいと思えます。長岡市全体のためになるように努力してまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。</p>
委員	<p>先ほど来、お話が出ているように、具体的な数値目標を入れられたということで、より具体的に取り組んでいく方向が明確になったというふうに思っております。</p> <p>我々金融機関として関わることができるのは、戦略4の働くというところだと思います。起業・創業の件数を増やすということで、これは全面的に支援していきたいと思っています。</p> <p>起業・創業と、これに関連して、廃業を少しでも減らすために、ということで、事業承継も支援しております。手前どもは今年度、試行的に事業承継マッチングを東京都内で行いました。通常、事業承継は、家族や従業員が継ぐことが一般的ですが、これらが難しいと第三者による承継ということになります。そこで、企業の方で商売を第三者でも構わないので、継いでくれる人がいればというニーズと、何らかの基盤を引き継ぐ形で創業をしたい方のニーズを引き合わせるということをやってみました。具体的に何件か成功事例も出てきております。それらを掘り下げてみると、引き継いでやりたいという方は首都圏に多く、譲りたい、継いでもらいたいのが後継者がいない方は地方が</p>

委員	<p>多いことが見えてきました。令和2年度は、全国にこの取組を拡大して、全国ネットで事業承継のマッチングをすることで、少しでも廃業を減らしていきたいと思っています。来年度も、いろいろな形で、総合戦略に関わっていければと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>この6つの戦略の中では戦略1の若者定着、これに全て集約されるのではないかなと、私は考えております。長岡市の若者が進学で首都圏に出て行きますが、その方を長岡市にUターンさせる。それから、進学で他市町村、他県から長岡市に入って来る学生を長岡市に定住させる。そういった取り組みを重点的に行っていくことが必要と考えております。</p> <p>私ども金融機関といたしましては、創業、それから起業もさることながら、地元企業の成長について支援していかなければならないと考えております。やはり、企業が成長すれば雇用が増える。雇用を増やさなければ、若者の働く場が増えません。これらを重点的に行っていければいいのかなと思います。</p> <p>これらについて私どもは、各金融機関の皆さま、包括連携を結んでおります長岡市の皆さまと連携をしながら、推進をしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>私どもからは子育てに関係する部分での要望をお話させていただきます。企業主導型保育や幼児保育、病後保育などこういった個性的で特徴的な保育を市でやられているかどうか、もしやられているのであれば総合戦略に具体的に明記して進めていくというのも一つの案だと考えています。</p> <p>それから、また保育に関してですが、休日保育など、一般の方々ではない人を対象とした保育の整備についても総合戦略の中に盛り込んでいただければ、より環境整備が進むのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>市長も仰っておりますが、長岡は産業集積があり、人口も30万弱で、いろいろな条件がそろった都市であると思います。この総合戦略でいいますと、6つの分野の戦略を一つ一つ積み上げて、それぞれをブラッシュアップし、改善しながら、目標に向かっていくといったような進め方が必要であると思います。</p> <p>ただし、個人的に、一番の要は戦略1の若者定着であると思います。</p>

磯田市長	<p>若者が長岡を選んでくれるためにはどうしたらいいのかということです。私は、若い人がチャレンジをしたり、ここで何かをやってみたりしたいというのには、社会のセーフティーネットが必要ではないかと思えます。例えば、医療や将来の社会保障、介護などのセーフティーネットがしっかりしていれば、みんな、チャレンジすると思えます。このセーフティーネットについては、企業が例えば、年金を負担することになると、企業の体力も大きく奪われていく。安心・安全な社会を構築することで、若者が子供を産み育て、企業やあるいは個人でもチャレンジして、新しいものを生み出していくという機運が出てくるのだと。目先の改善だけでは、日本のどこでも人口減少になっており、根本的な問題を解決するには至らないのではないかと、私は思っております。ここはやはり、ある程度、政治の問題かもしれません。そういう意味では、市長さんにもぜひ頑張ってもらって、安心・安全な社会を構築していくような雰囲気がこの長岡から、新潟県や全国に広まっていけばよいと思っております。</p> <p>また、この6つの戦略の中で、一つ申し上げたかったのは、長岡を若者に選んでもらうには、そこで受け皿となる産業なり、あるいは企業に魅力があることや若者にアピールできるものがないと、若者のほうも選びようがないということです。長岡の会社が BtoB 中心で、なかなか最終消費財を作っていないだけに、企業の姿が一般には見えづらいという点もあります。そういう意味では、企業自身や産業界が、もう少し、自分たちの魅力づくりや PR をきちっとしていかないと、将来の労働力を確保できないんじゃないかなと思えます。</p> <p>どうもありがとうございました。いろいろなご意見を賜りまして、私のほうから、気が付いたところをお答え申し上げたいと思えます。</p> <p>まず、出生率の問題が一番大事なのに、その肝心のところがちょっと弱いという話をいただきました。まさしく、この計画の戦略の中にも、2040年の合計特殊出生率2.07という高い目標はあり得るのかという議論も一方ではあります。ただ、これは国の目標を踏襲したものですので、そこは崩さない形で、2015年の1.45を将来的には2.07に近づけていくという計画としております。</p> <p>直近（2018年）の合計特殊出生率1.47について国などと比較して高いという評価もいただきましたが、私どもはまだまだ低いと思っております。子育てについては十分、いろいろな政策をやってきているのに、なかなかこの数値が上がらないのはなぜかということを考えてい</p>
------	--

ますが、まだ答えが見つからないというのが正直なところです。

後ほど、特徴的な子育てについて、政策企画課のほうからご説明いたしたいと思いますが、ここがポイントであるという認識は持っております。ただ、いきなり補助金を出して、子供を産んでくださいというような政策が本当にいいのかどうかという部分があります。議論を行う中で、まずは長岡の魅力を高めるのが基本だろうということで、全体としてはこのような内容になっているわけであります。

人口減少は、全体に大きな影響を及ぼすということで、そういう中で、これだけの高い目標値は大丈夫かというご指摘がございましたが、これはそのとおりでございます。そこは、高めの目標値を設定しつつも、現実的には具体的な数字を見ながら、人口減少を防ぐにはどうしたらいいか、あるいは、外からの流入をどうしたら増やせるかを考えていきます。

例えば、北インター周辺の産業団地をこれから売りに出しますが、全体が売れると、1,000人ぐらいの雇用ができます。そのうち400人が新規分になりますが、その新規の方がどこから来るかということです。それは市内からの移動もあるかもしれませんが、周辺の市町村からも当然あるだろうということも期待しているわけであります。これは、それこそ魚沼や柏崎、あるいは県央地区から長岡目掛けて若い人が動いてくるということが、長岡の戦略としてはあると思っています。出生率だけではなくて、そういった転入の増加というものも期待したいという思いもこの戦略の中に入っております。大積インターや、中心市街地の空き家の活用について、もし織り込めるようでしたら、表現の中で検討してみたいと思います。

続きまして、若い人の意見の活用について。先日、議会の委員会でこんな質問がありました。「長岡には本当に遊ぶ場所がないので投資すべきではないか。」と。どういうことかということ、ディズニーランドを作ってほしいということだと思います。そういったテーマパーク的な展開というものが日本全体の中で不成功に終わった事例を今まで、いろいろと見てきております。長岡でも似たようなことにトライして失敗したこともあります。では、そういうものではない魅力を若者はどう考えているのかというのは、ご指摘の通りヒアリングをしながら、聞いていく必要があるのかなと思います。通り一遍の、何が欲しいとかではなく、一人一人の思いというものを聞いて、デザイン思考的にユーザーの声をしっかり聞くことが大切だと、あらためて感じたところであります。そうしたものを実際の政策の実行段階で、しっ

かりやっていききたいというふうに思いました。

「新しい米百俵」というふうに言っていますが、「米百俵」は不変のものです。ただ、これは米百俵というものを、その精神に基づいて起こすアクションやムーブメントが新しい取り組みであるという意味で、「新しい」と付けています。ではなぜ、新しいというふうに付けたのかというと、今のイノベーションの時代、これだけ変化の大きく価値観が変わる時代で、「新しい米百俵」というものの取り組みについても、新しい視点、あるいは新しい考え方による取り組みがあっただろうという意味で、「新しい」と言っています。したがって、米百俵は長岡にとっても、あるいは大げさに言えば、人類にとっても、不変のものだというふうに思っています。

外国人材についてのご意見がありました。これについては現在、ハノイ大学から2人、サカタ製作所という会社に入ってもらっています。そこで、サカタ製作所さんから聞いたのが、このハノイ大学の学生が3Dプリンターを自分で作ってしまうと。そういうレベルの高い学生さんで、日本の学生さんの中でもなかなかこのレベルの方はいないということです。技大のある先生はもう日本の、あるいは長岡の企業は、外国人の人材を人手不足のためではなく、外国人の人材を入れることで、企業を新しい段階に成長するための必須不可欠のものだと仰っています。そういう思いで、給料や居住環境を整備して、迎え入れなくては駄目だということを仰っていますが、まさしく、そういう時代になっていると感じています。人手不足ではなく、企業が変わるための高度人材としての外国人材の受け入れということも考えていきたいと思っております。

目標にとらわれて本義を見失わないようにというご意見もありました。今回の新型コロナウイルスの問題で、いろいろな働き方のご提言もありました。例えば首都圏の満員電車をやめればいいのかと、我々は思いますが、やめてしまったら東京におけるビジネスは成立しないこととなります。これからも感染症のようなことが起きうるという前提で申し上げますと、首都圏での働き方・生き方というのは重大な欠陥があると思う。そうすると、分散型の働き方で、まずテレワークという話が出てくる。テレワークならば、別に東京でテレワークをやらなくても、どこに住んでもいいという話にもなってきます。

そういう意味ではこれから、日本も世界も変わる可能性があるなどというふうに思っています。人口の分散や東京一極集中というものも変わるのではないかと思います。これから大きな変化が起こると思いま

<p>事務局・政策企画課長</p>	<p>すので、そういうのはしっかりと捉えていきたいというふうに思っております。</p> <p>起業・創業、事業承継について、樋口屋さんというお菓子屋さんが、あれだけの銘菓があって、そして職人さんもいたにもかかわらず、店を畳んでしまうという話がありました。これは大変だということで、長岡の会社が引き受けていただき、今も、樋口屋さんのブランドである「米百俵」のお菓子などが引き継がれています。このような事業承継も起業・創業と併せて重要な取組というふうに思っております。</p> <p>特徴的な保育というのは良いご提言だと思っています。これについて総合戦略の中に何らかの形で入れられるのであれば入れたいと思いますし、具体的な政策の中で進めていくことも考えていきます。今、休日保育は実施していますか。</p> <p>部分的ですが、やっています。</p>
<p>磯田市長</p>	<p>実施しているのであれば徹底的にやるとか、他には24時間の保育など、特徴的な保育にはいろいろな形があると思うので、通り一遍の拡大ではなく、長岡らしいアイデアを考えていきたいと思います。</p> <p>社会のセーフティーネットや社会全体が変わっていくというところ、そして何が変わっているかということに気付かずに、今までの継続でやっていくと、現実から常に数歩遅れた対応になって、魅力にならないというふうに思っています。これから社会が本当にどういうふうになるかを見ながら、将来のために米百俵の精神に基づいた新しいチャレンジをぜひ、今回の長岡リジュベネーションの中でこれから5年間、頑張っていきたいと思います。</p> <p>いずれにしてもこの長岡リジュベネーションは、5年という期間の中で、国の支援を得るために地方版の総合戦略としてつくるものがありますので、ここに現在のわれわれのアイデアというものは全部、詰め込まれております。今後は、毎年の変化に応じて、どんどん変わって、新しいアイデアもこの中に入っていくというふうになるかと思っておりますので、今後とも、皆さまのほうからいろいろなご提言なり、アイデア、アドバイスをいただければ幸いに存じます。</p> <p>では、補足をお願いします。</p>

事務局・政策企画課長	資料1の12ページをご覧いただきたいと思います。戦略2の子育ての「基本施策2-1」の「主な施策」の一番上になります。長岡オリジナルの“保育士のいる屋根付き公園”「子育ての駅」というふうに書いておりますが、これがまさに長岡オリジナルの取組でございます。支所地域を含めて13カ所運営しております。いつでも親子で行っていただくことができ、そこには保育士が常駐しております。
磯田市長	すでに長岡オリジナルの取組もありますが、保育本体の中に長岡ならではの事業・政策を取り込んだ上で、進めていきたいと思います。では以上で、ご意見いただく時間を終わりたいというふうに思います。続いてその他につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
事務局・政策企画課長	長時間にわたりまして、ありがとうございました。いただいたご意見を踏まえまして、事務手続きを進めまして、3月末までには総合戦略の策定をさせていただきたいと思います。完成いたしましたら、関係機関の皆さまにはご配布をさせていただきたいと思っております。私からは以上でございます。
磯田市長	以上で議事を終了させていただきますが、皆さまのほうから何かありましたか。 よろしいですか。どうもありがとうございました。
事務局・地方創生推進部長	貴重なご意見をありがとうございました。この戦略が絵に描いた餅にならないように皆さまからのご意見も参考にしながら、具体的で効果的な事業を組み立てていきたいと考えております。 それでは、これもちまして、令和元年度第2回長岡市地方創生推進会議を閉会といたします。本日はありがとうございました。
10 会議資料 <ul style="list-style-type: none"> ○ 議事次第・出席者名簿・配席図 ○ 資料1 第2期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略/人口ビジョン～長岡リジュベネーション（長岡若返り戦略）～（案） ○ 資料2 パブリックコメント実施結果の概要 	